

平成27年度 財政状況資料集

総括表（都道府県）

都道府県名	香川県		職員の状況				区分		平成27年度(千円)	平成26年度(千円)	区分		平成27年度(千円・%)	平成26年度(千円・%)
			区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)		歳入総額	歳出総額	実質収支比率					
グループ	C		知事	1	12,850		445,904,227	430,060,930	2.9	1.5				
人口	27年国調(人)	976,263	副知事	1	9,800		433,293,841	418,730,414	94.4	94.8				
	22年国調(人)	995,842	教育長	1	8,100		12,610,386	11,330,516	(※1)	(104.9)				
	増減率(%)	-2.0	議会議長	1	9,400		4,987,870	7,436,057	264,861,708	258,737,785				
住民基本台帳人口(※6)	28.01.01(人)	1,002,173	議会副議長	1	8,500		7,622,516	3,894,459	0.46060	0.44256				
	うち日本人(人)	992,511	議会議員	39	8,000		3,728,057	-2,528,671	20.0	20.5				
	27.01.01(人)	1,005,570	積立金				1,926,317	3,165,207	健全化判断比率					
	うち日本人(人)	996,717	繰上償還金				-	-	実質赤字比率					
増減率(%)	-0.3	一般職員	3,693	12,308,769	3,333	7,789	1,032,105	-	-					
面積(km ²)	1.877		うち消防職員	-	-	-	-	-	-	-				
	1.877		うち技能労務職員	26	84,292	3,242	5,646,585	-395,569	12.0	13.4				
人口密度(人/km ²)	534		警察官	1,837	5,847,171	3,183	103,338,976	92,129,871	190.2	191.7				
世帯数(世帯)	398,551		教育公務員	7,590	28,539,473	3,760	212,099,003	202,794,721	資金不足比率(※4)					
			臨時職員	-	-	-	129,453,688	116,622,921						
			合計	13,120	46,695,413	3,559	251,181,482	248,290,334						
			ラスバイレス指数	97.5			307,400,917	297,952,216						
							864,769,044	860,074,130						
							239,281,788	250,853,116						
							58,024,983	66,957,385						
							2,742,913	2,702,746						
							-	-						
							-	-						
							17,473,038	15,554,510						
							22,013,839	24,603,347						
							24,899,242	28,910,122						
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧									
項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名						(※3)	
(1) 一般会計		(11) 駐車場事業特別会計	(12) 香川県立病院事業会計	(16) 流域下水道事業特別会計	(20) 高松空港ビル(株)									
(2) 母子父子寡婦福祉資金特別会計			(13) 香川県水道用水供給事業会計	(17) 臨海工業地帯造成事業特別会計	(21) (公財) 明治百年記念香川県青少年基金									
(3) 就農支援資金特別会計			(14) 香川県工業用水道事業会計	(18) 番の州地区臨海工業用地造成事業特別会計	(22) (公財) 香川県国際交流協会									
(4) 中小企業高度化資金特別会計			(15) 香川県五色台水道事業会計	(19) 内陸工業団地造成事業特別会計	(23) (公財) かがわ水と緑の財団									
(5) 集中管理特別会計					(24) (公財) 香川県環境保全公社									
(6) 証紙特別会計					(25) (公財) 吉野川水源地域対策基金									
(7) 栗林公園特別会計					(26) (公財) 香川県身体障害者団体連合会									
(8) 吉野川総合開発香川用水建設事業特別会計					(27) (公財) 香川のちのちのリレー財団									
(9) 林業・木材産業改善資金特別会計					(28) (公財) 香川県生活衛生営業指導センター									
(10) 沿岸漁業改善資金特別会計					(29) (公財) 香川県食鳥衛生検査センター									

(注釈) ※1：經常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。
 ※6：住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

(1) 普通会計の状況（都道府県）

歳入の状況（単位 千円・％）				道府県税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	134,925,315	30.3	110,801,879	46.3	普通税	134,917,578	100.0	722,609
地方譲与税	18,156,591	4.1	18,156,591	7.6	法定普通税	134,917,578	100.0	722,609
地方揮発油譲与税	1,645,090	0.4	1,645,090	0.7	道府県民税	40,905,706	30.3	722,609
地方道路譲与税	-	-	-	-	個人均等割	712,025	0.5	-
特別とん譲与税	-	-	-	-	所得割	30,360,995	22.5	-
石油ガス譲与税	87,297	0.0	87,297	0.0	法人均等割	1,639,303	1.2	-
航空機燃料譲与税	9,519	0.0	9,519	0.0	法人税割	4,413,923	3.3	722,609
地方法人特別譲与税	16,414,685	3.7	16,414,685	6.9	利子割	735,417	0.5	-
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	配当割	1,641,396	1.2	-
地方特例交付金	301,505	0.1	301,505	0.1	株式等譲渡所得割	1,402,647	1.0	-
地方交付税	111,002,625	24.9	108,760,027	45.4	事業税	25,872,819	19.2	-
普通交付税	108,760,027	24.4	108,760,027	45.4	個人分	829,428	0.6	-
特別交付税	2,146,457	0.5	-	-	法人分	25,043,391	18.6	-
震災復興特別交付税	96,141	0.0	-	-	地方消費税	40,726,492	30.2	-
(一般財源計)	264,386,036	59.3	238,020,002	99.4	不動産取得税	2,384,895	1.8	-
交通安全対策特別交付金	450,893	0.1	450,893	0.2	道府県たばこ税	1,159,281	0.9	-
分担金・負担金	1,657,583	0.4	-	-	ゴルフ場利用税	376,923	0.3	-
使用料	4,339,682	1.0	132,175	0.1	自動車取得税	955,906	0.7	-
手数料	1,656,102	0.4	318,761	0.1	軽油引取税	9,466,750	7.0	-
国庫支出金	43,817,831	9.8	-	-	自動車税	13,068,794	9.7	-
国有提供交付金	-	-	-	-	釧区税	12	0.0	-
財産収入	897,140	0.2	119,644	0.0	固定資産税特例	-	-	-
寄附金	99,718	0.0	-	-	法定外普通税	-	-	-
繰入金	12,390,325	2.8	-	-	目的税	7,737	0.0	-
繰越金	11,330,516	2.5	-	-	法定目的税	7,737	0.0	-
諸収入	47,734,401	10.7	327,464	0.1	狩猟税	7,737	0.0	-
地方債	57,144,000	12.8	-	-	法定外目的税	-	-	-
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-
うち臨時財政対策債	26,600,000	6.0	-	-	合計	134,925,315	100.0	722,609
歳入合計	445,904,227	100.0	239,368,939	100.0				

区分		平成27年度		平成26年度	
徴収率 (%)	現計	99.4	98.5	99.3	98.2
	合計	98.9	96.6	98.9	96.3
	道府県民税 事業税	99.9	99.7	99.8	99.6

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・％）				
目的別歳出の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	1,213,418	0.3	-	1,213,160
総務費	22,406,627	5.2	537,877	19,512,397
民生費	63,876,092	14.7	1,605,328	55,086,695
衛生費	23,420,261	5.4	5,115,999	10,860,355
労働費	1,684,297	0.4	30,621	646,865
農林水産業費	17,095,870	3.9	8,081,782	9,166,288
商工費	48,858,896	11.3	286,221	8,846,426
土木費	42,545,997	9.8	26,172,753	13,446,614
警察費	24,445,063	5.6	1,903,599	21,901,377
消防費	-	-	-	-
教育費	100,945,441	23.3	8,532,115	69,784,737
災害復旧費	1,172,643	0.3	-	141,165
公債費	62,228,409	14.4	-	61,572,818
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
利子割交付金	367,350	0.1	-	367,350
配当割交付金	977,765	0.2	-	977,765
株式等譲渡所得割交付金	833,507	0.2	-	833,507
地方消費税交付金	20,314,015	4.7	-	20,314,015
ゴルフ場利用税交付金	264,190	0.1	-	264,190
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	644,000	0.1	-	644,000
軽油引取税交付金	-	-	-	-
特別区財政調整交付金	-	-	-	-
歳出合計	433,293,841	100.0	52,266,295	295,579,724

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	196,718,343	45.4	169,618,607	167,420,418	62.9
人件費	125,114,018	28.9	103,501,128	101,355,541	38.1
うち職員給	90,449,570	20.9	74,118,534	74,116,011	27.9
扶助費	9,422,059	2.2	4,590,804	4,590,804	1.7
公債費	62,182,266	14.4	61,526,675	61,474,073	23.1
元利償還金	62,175,954	14.3	61,520,363	61,467,761	23.1
内 うち元金	52,449,086	12.1	52,069,609	52,017,007	19.6
うち利子	9,726,868	2.2	9,450,754	9,450,754	3.6
一時借入金利子	6,312	0.0	6,312	6,312	0.0
その他の経費	183,136,560	42.3	118,290,330	83,761,064	31.5
物件費	23,005,701	5.3	14,384,476	13,974,546	5.3
維持補修費	8,995,345	2.1	6,097,424	6,097,424	2.3
補助費等	101,017,179	23.3	91,007,315	63,491,855	23.9
繰出金	2,219,225	0.5	2,164,602	-	-
積立金	7,610,170	1.8	4,381,193	-	-
投資及び出資金	5,835	0.0	5,831	-	-
貸付金	40,283,105	9.3	249,489	197,239	0.1
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	53,438,938	12.3	7,670,787	-	-
うち人件費	799,039	0.2	94,773	-	-
普通建設事業費	52,266,295	12.1	7,529,622	-	-
うち補助	27,321,693	6.3	1,025,554	-	-
うち単独	22,142,934	5.1	5,692,619	-	-
災害復旧事業費	1,172,643	0.3	141,165	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	433,293,841	100.0	295,579,724	-	-

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

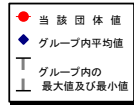
平成27年度 香川県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

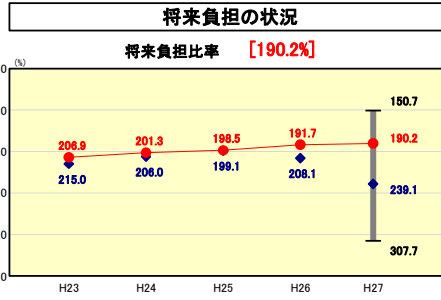
会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	470,419	458,700	11,719	7,430	12,747	851,645	
2 母子父子寡婦福祉資金特別会計	258	189	69	-	5	309	
3 就業支援資金特別会計	90	24	66	11	0	162	
4 中小企業高度化資金特別会計	1,667	1,263	404	-	0	12,962	
5 集管理特別会計	96,841	96,891	50	50	70	-	
6 福祉特別会計	3,171	3,040	131	131	0	-	
7 森林公園特別会計	292	292	0	0	59	-	
8 百野川総合開発香川用水建設事業特別会計	2,162	2,162	0	-	576	-	
9 林業・木材産業改善資金特別会計	67	4	59	-	0	-	
10 沿岸漁業改善資金特別会計	116	4	112	-	0	-	
11 県立大学特別会計	834	834	0	-	596	-	
12 奨学金特別会計	605	604	1	1	376	-	
13 県債管理特別会計	134,540	134,540	0	-	61,935	-	
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							

(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

人口	1,002,173	人(H28.1.1現在)	-	%
うち日本人	992,511	人(H28.1.1現在)	-	%
面積	1,876.72	km ²		
歳入総額	445,904,227	千円	12.0	%
歳出総額	433,293,841	千円	190.2	%
実質収支	7,622,516	千円		
標準財政規模	264,861,708	千円		
地方債現在高	864,769,044	千円		



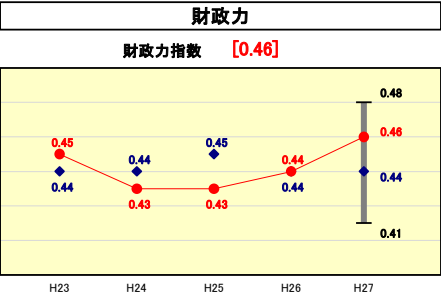
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



グループ内順位 4/9 都道府県平均 175.6

将来負担比率の分析概

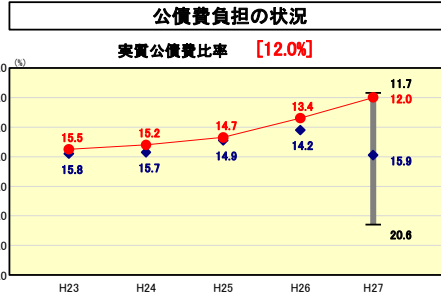
財政運営計画に基づき、臨時財政対策債を除く地方債残高を減少させる財政運営の結果、一般会計のうち平成23年度末に5,436億円であった臨時財政対策債を除く地方債残高は、平成27年度末には4,889億円となっています。将来負担額における一般会計等の地方債残高は平成26年度と比べ増加していますが、将来負担額全体では、対象者の減による退職手当負担見込額の減などにより、約4億円の減少となっています。充当可能財源等は、平成26年度に比べ減少していますが、標準収入額の増により標準財政規模が増加したため、将来負担比率は低下しています。
 新たに策定した財政運営指針(平成28年度から32年度)に基づき、一般会計及び全会計の臨時財政対策債を除く県債残高を減少させるとともに、元金プライマリーバランスの黒字化を図り、一般会計及び全会計の県債残高の減少を目指します。



グループ内順位 3/9 都道府県平均 0.49

財政力指数の分析概

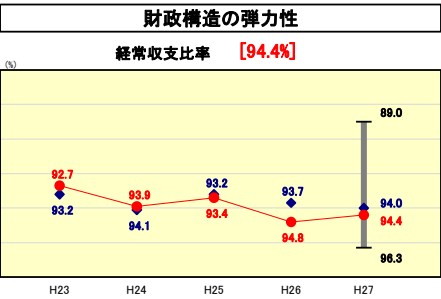
公債費の増等により標準財政需要額は増加傾向にありますが、経済環境の改善に伴う法人収益の改善及び消費税率の引上げ等により標準財政収入額も増加傾向にあるため、財政力指数(単年度)は4年連続で増加しています(H20:0.49010、H21:0.47781、H22:0.43428、H23:0.42440、H24:0.43310、H25:0.44029、H26:0.45430、H27:0.48717)。今後も公債費が増加傾向にあることに加え、少子高齢化に伴う社会保障関連経費の増額が見込まれることから、総人件費の抑制(全国最小の「2,800人体制」の継続)や計画的な更新投資等を実施するとともに、香川滞納整理機構の活用等による県税収入の確保及び県有未利用地の売却等、歳入確保に努めます。



グループ内順位 2/9 都道府県平均 12.7

実質公債費比率の分析概

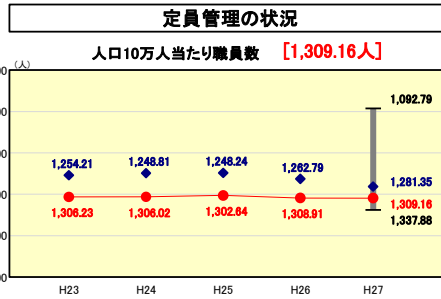
平成27年度は、元利償還金及び準元利償還金の合計額は、借り換え等に伴う借入利率の低下による元金償還金の減により、平成26年度より約4億円程度減少しています。標準財政需要額も臨時財政対策債の増などにより増加し、標準収入額の増により標準財政規模が増加したため、実質公債費比率は低下しています。
 新たに策定した財政運営指針(平成28年度から32年度)に基づき、県税収入の確保等による歳入確保、事務事業の廃止・見直しによる歳出抑制に取り組むとともに、一般会計及び全会計の臨時財政対策債を除く県債残高を減少させるとともに、元金プライマリーバランスの黒字化を図り、一般会計及び全会計の県債残高の減少を目指します。



グループ内順位 7/9 都道府県平均 93.4

経常収支比率の分析概

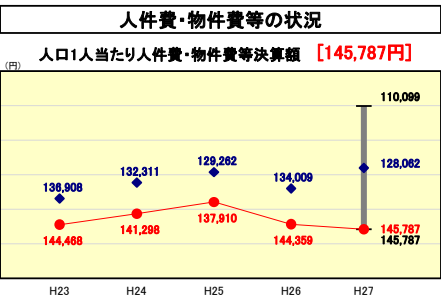
平成23年度から平成27年度は、経常的経費に要する一般財源が対前年度より増加する傾向が続いたもの(H23決:239,048,887千円、H24決:242,967,952千円、H25決:244,396,836千円、H26決:248,290,334千円、H27決:251,181,482千円)、経常一般財源収入額及び臨時財政対策債の合計額も増加傾向にあったため(H23決:257,978,111千円、H24決:258,881,433千円、H25決:261,745,902千円、H26決:263,012,402千円、H27決:265,968,939千円)、経常収支比率はH27決では対前年度より0.4ポイント減少しています。
 経常的経費が増加する主な原因としては、社会給付費の増加が要因として挙げられます。本県では平成28年度から平成32年度までを対象期間として、各年度の収支均衡等を目指した「財政運営指針」を策定しており、本指針に沿って歳入確保・歳出抑制の取組を行っています。



グループ内順位 5/9 都道府県平均 1,111.23

人口10万人当たり職員数の分析概

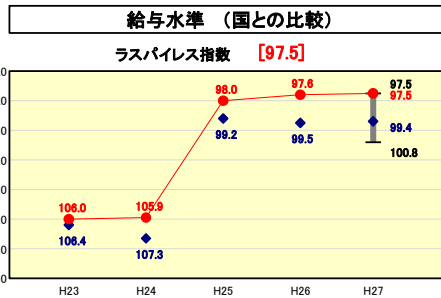
従来より事務事業を抜本的に見直すとともに、組織の見直しを行い、メリハリをつけた職員数の削減を行ってきたところです。
 特に知事部局においては、5次に亘って定員管理計画を策定し、平成10年度からの職員数削減により、平成10年度の職員数(3,674人)の約4分の1にあたる職員数を削減し、平成22年度に全国で最も少ない2,800人体制(2,779人)を達成しています。
 今後とも、これまでの行政改革で実現した2,800人体制を基本として、適正な定員管理を行います。なお、人口10万人当たり職員数については、本県の人口が1,002,173人(28.1住民基本台帳人口)と比較的少ないことから、財政力指数を同じくするグループや都道府県の平均に比して数値が高くなっているものと思われます。



グループ内順位 9/9 都道府県平均 115,559

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析概

人口1人当たりの人件費・物件費等決算額は類似団体の平均値を上回っています。人件費に関しては、特に知事部局においては、5次に亘って定員管理計画を策定し、平成10年度からの職員数削減により、平成10年度の職員数(3,674人)の約4分の1にあたる職員数を削減し、平成22年度に全国で最も少ない2,800人体制(2,779人)を達成しています。
 今後とも、これまでの行政改革で実現した2,800人体制を基本として、適正な定員管理を行います。
 物件費は類似団体平均値と比較し、H27決では9千円近く差がありますが、26年度国経済対策に伴う物件費決算額が増額したこと等、増加傾向があった一方、類似団体では平均値を減少させる要因があったことから、差が拡大したものと考えられます。



グループ内順位 1/9 都道府県平均 100.3

ラスパイレース指数の分析概

国家公務員の給与減額支給措置が講じられている期間については、香川県のラスパイレース指数は100を超えていましたが、当該措置が終了し、直近の指数は97.5となっており、国を下回っています。
 今後においても、本県職員の給与水準については、県人事委員会の勧告による地域民間準拠を基本に、適正なものとなるよう努めます。

(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成27年度

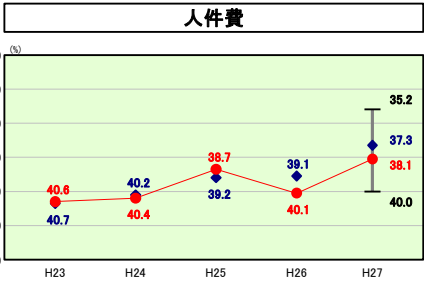
香川県

経常収支比率の分析

人口	1,002,173	人(H28.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	992,511	人(H28.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	1,876.72	km ²	実質公債費比率	12.0	%
歳入総額	445,904,227	千円	将来負担比率	190.2	%
歳出総額	433,293,841	千円			
実質収支	7,622,516	千円	グループ	H23 C H24 C H25 C	
標準財政規模	264,861,708	千円	(年度毎)	H26 C H27 C	

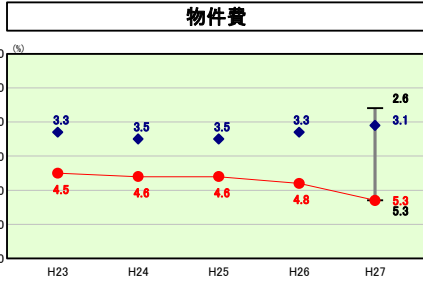


※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



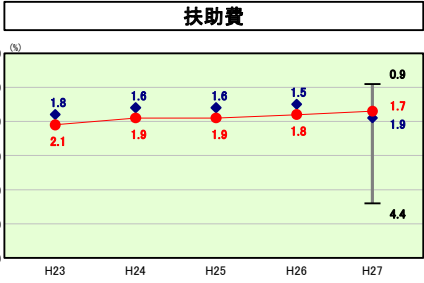
人件費の分析欄

27年度決算においては、給与制度の総合的見直しに伴い、基本給の決算額が減少したものの、支給対象者数の増加に伴う退職手当の増、地域手当・期末勤続手当の増(支給割合、支給月数の改定)等により、歳出決算額は26年度と比較し904,010千円増加しました。しかし、退職手当に退職手当債を充当した結果、人件費のうち経常的経費に要する一般財源が対前年度と比較して減少したこと等から、人件費における経常的経費は2.0ポイント減少しています。「財政運営指針」に則り、総人件費の抑制に向けて、定員数及び給与水準の適正な管理に取り組んでいきます。



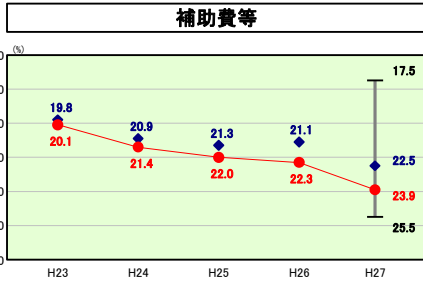
物件費の分析欄

物件費における経常収支比率は、類似団体の平均値を上回っています。27年度決算において経常収支比率が0.5ポイント増加していますが、大規模な基幹系情報システム改修を行ったことに伴い一般財源所要額が対前年度より増加(316,889千円増加)したこと等が影響しています。「財政運営指針」に基づき、情報システム調達・運用経費の縮減など歳出抑制策に取り組んでいきます。



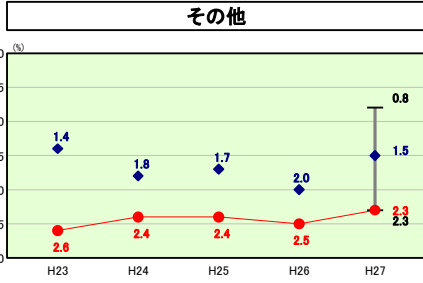
扶助費の分析欄

歳出では、肝炎総合対策事業や奨学のための給付金事業の増等に伴い、前年度より歳出決算額は80百万円余の増加となりましたが、基金の繰入等に伴う特定財源充当により、扶助費のうち経常的経費に要する一般財源は、27年度決算額では減少の結果となりました(H23決: 5,519,791千円、H24決: 4,946,746千円、H25決: 4,972,635千円、H26決: 4,699,334千円、H27決: 4,590,804千円)。今後も社会保障関係経費の増加が見込まれますが、「財政運営指針」に沿って事務事業の廃止・見直しの徹底などによる経費の削減に努めます。



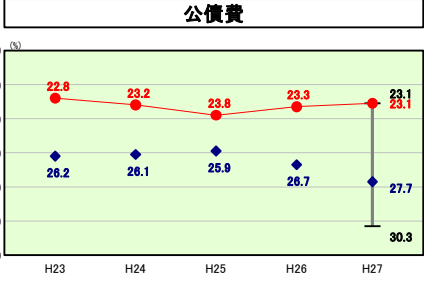
補助費等の分析欄

補助費等は、消費税率引上げの影響により、地方消費税交付金の支出が大きく増加したことから、対前年度と比較して1.6ポイント近の増加となっています。経常収支比率が毎年増加しているのは、社会保障経費の増加に伴うもの、特に介護給付費負担金の増加が大きく影響しています。今後も、高齢化の進展などによる介護給付費負担金の増加傾向は見込まれるため、事務事業の廃止・見直しの徹底などによる経費削減に努めます。



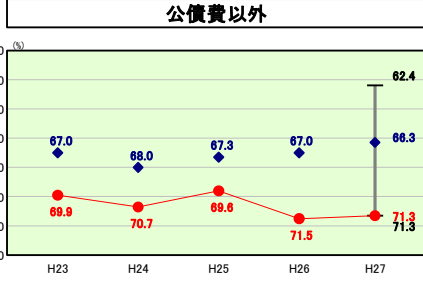
その他の分析欄

その他に要する経費としては、主に維持補修費の決算額が他の類似団体と比較し大きいことが影響していると考えられます(維持補修費のうち経常的経費に要する一般財源は次の通り推移。H23: 6,606,597千円、H24: 6,080,778千円、H25: 6,034,564千円、H26: 6,373,203千円、H27: 6,097,424千円)。H27決算では、H26決算と比較し、経常的経費に要する一般財源が275,779千円減少したため、経常収支比率は0.2ポイント減少しています。県有建物や公共土木施設等の老朽化が進み、今後も多額の更新費用を要すると見込まれることから、これらの県有公共施設等の総合的な管理を推進し、財政負担の軽減と平準化を図っていきます。



公債費の分析欄

公債費における経常収支比率は類似団体の平均値を下回って推移しています。平成27年度は、満期一括の借換債の元金償還が開始したこと等から、公債費のうち経常的経費に要する一般財源は対前年度より増加しました。しかし、県税の増加等に伴い、経常一般財源収入額が増加したことから結果として0.2ポイント経常収支比率は減少しています。「財政運営指針」に基づき、金利リスクの分散を図るため、償還年数別残高及び借換債の状況を考慮し、償還年数を設定することや、県債調達コストの削減を図るため、「見積り合わせ」による調達を継続します。



公債費以外の分析欄

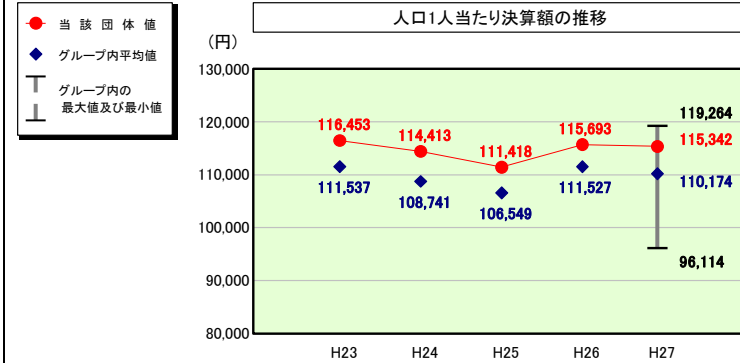
公債費を除く経常収支比率は、類似団体の平均値を毎年上回っていますが、主に物件費及び補助費等の経常収支比率が類似団体の平均値を上回っていることが主な原因と考えられます。平成28年度より「財政運営指針」を策定し、財源不足解消に向けて歳入面では、県税収入の確保・県有未利用地等の売却などの対策を、歳出面では、政策的経費の見直しの徹底・一般行政経費及び維持管理経費の縮減を徹底するなどの対策をそれぞれ行い、持続可能な財政運営を目指します。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成27年度

香川県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

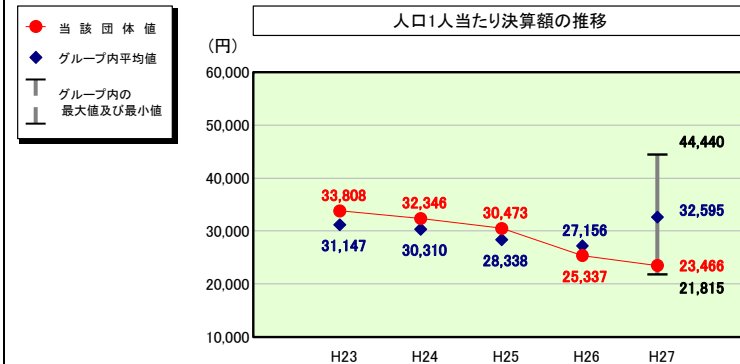
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	125,114,018	124,843	118,617	5.2
賃金 (物件費)	187,504	187	429	▲ 56.4
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	1,302,260	1,299	509	155.2
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	0	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	-	-	16	-
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	799,039	797	1,579	▲ 49.5
▲退職金	▲ 11,809,857	▲ 11,784	▲ 10,975	7.4
合計	115,592,964	115,342	110,174	4.7

参考

	当該団体	グループ内平均	対比 (差引)
人口100,000人当たり職員数 (人)	1,309.16	1,281.35	27.81
ラスパイレス指数	97.5	99.4	▲ 1.9

(注) 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

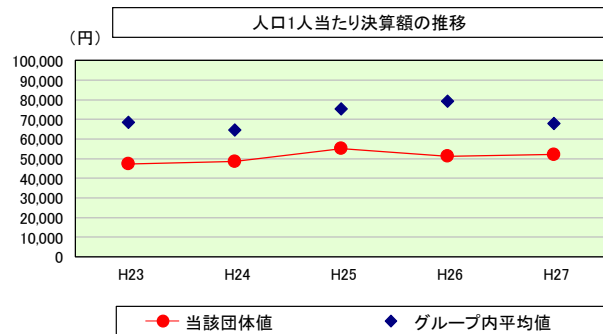
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	62,261,851	62,127	59,736	4.0
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	4,804	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	13,574	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	2,304,682	2,300	1,269	81.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	-	-	87	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	845,147	843	1,475	▲ 42.8
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利息は除く)	6,311	6	3	100.0
▲特定財源の額	▲ 756,090	▲ 754	▲ 1,378	▲ 45.3
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 41,145,027	▲ 41,056	▲ 46,975	▲ 12.6
合計	23,516,874	23,466	32,595	▲ 28.0

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

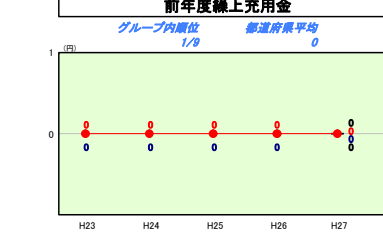
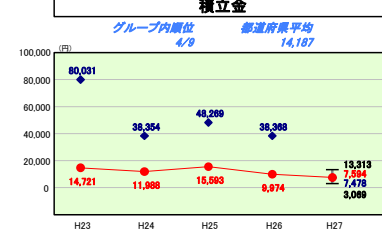
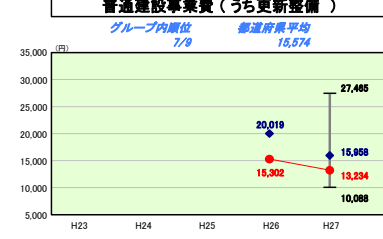
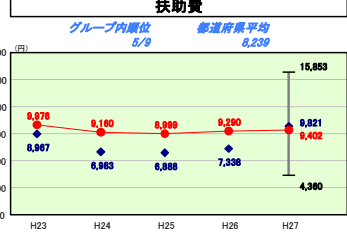
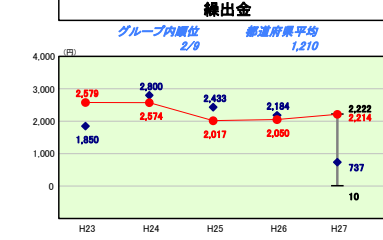
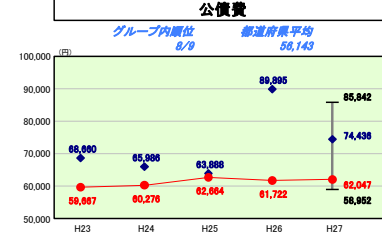
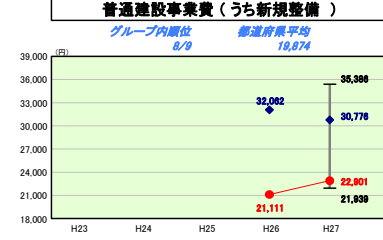
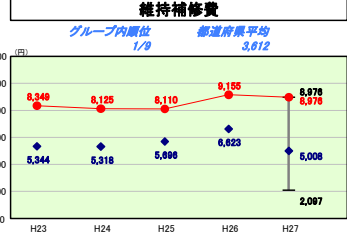
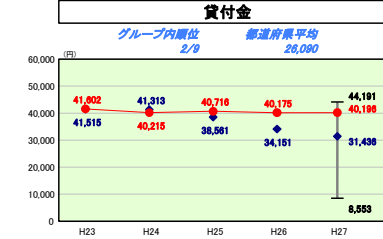
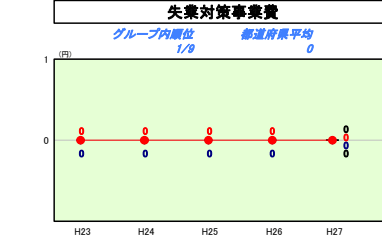
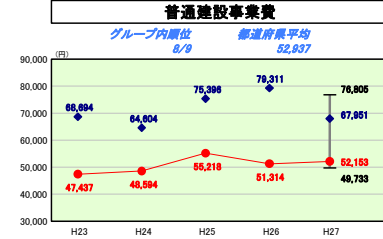
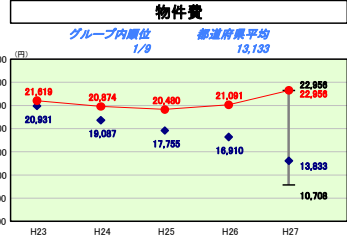
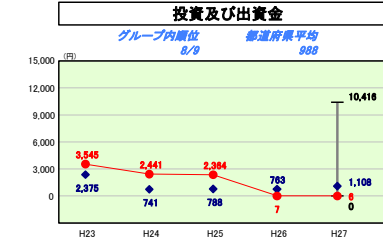
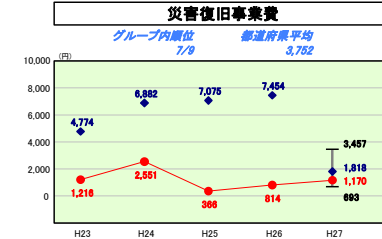
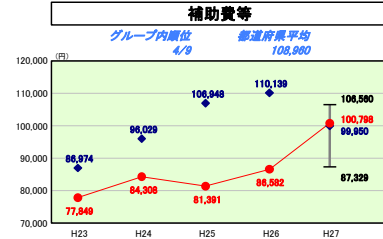
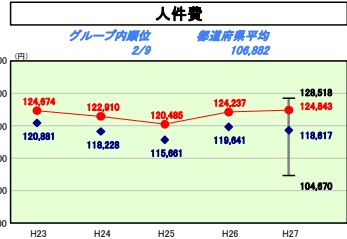
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	グループ内平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H23	47,744,767	47,437	▲ 8.4	68,694	▲ 10.5	2.1
		うち単独分	▲ 22.1	22,902	▲ 28.7	6.6
H24	49,114,405	48,594	▲ 2.4	64,604	▲ 6.0	8.4
		うち単独分	▲ 18.1	19,885	▲ 13.2	▲ 4.9
H25	55,771,294	55,218	13.6	75,396	16.7	▲ 3.1
		うち単独分	▲ 7.7	23,659	19.0	▲ 11.3
H26	51,599,567	51,314	▲ 7.1	79,311	5.2	▲ 12.3
		うち単独分	▲ 3.8	22,064	▲ 6.7	10.5
H27	52,266,295	52,153	1.6	67,951	▲ 14.3	15.9
		うち単独分	▲ 19.5	17,498	▲ 20.7	40.2
過去5年間平均	51,299,266	50,943	0.4	71,191	▲ 1.8	2.2
		うち単独分	▲ 1.8	21,202	▲ 10.1	8.3

(5) 都道府県性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

人	1,002,173	人(H28.1.1現在)	実	-	%
うち日本人	992,511	人(H28.1.1現在)	通	-	%
面積	1,876.72	km ²	算	12.0	%
歳入総額	445,904,227	千円	実	180.2	%
歳出総額	433,293,841	千円	得		
実収支	7,622,516	千円	未		
償還財政規模	264,861,708	千円	負		
地方債償還高	864,769,044	千円	担		

●	当該団体値
◆	グループ内平均値
◇	グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 { Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 }
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



性質別歳出の分析

本県では、平成23年度から平成27年度までを対象期間とした財政運営計画に沿って、歳入確保・歳出抑制の取組をすまめつ、人口減少への対応と地域活力の向上への対策を最重点として施策の選択と集中の徹底を進めました。人口1人当たりの決算額の推移について、主だった特徴を数点あげると次のとおりとなります。

物件費については、類似団体の平均値を上回って推移しています。27年度決算額では前年度と比較して人口1人当たりの決算額が1,865円増加していますが、これは生活支援事業や「せとちアートにふれる女子旅 プレミアムクーポン」事業等26年度国経済対策事業を27年度に繰り越して実施したこと等の増加要因が挙げられます。

維持補修費については、類似団体平均値を上回って推移しています。県有建物や公共土木施設等の老朽化が進んでいることから、今後も多額の更新費用を要すると見込まれており、これらの県有公共施設等の総合的な管理を推進してまいります。

政策的経費に区分される普通建設事業費及び災害復旧事業費は類似団体の平均値を下回って推移しています。普通建設事業費の内訳をみると、例年補助事業、単独事業ともに類似団体平均値を下回っていましたが、27年度決算額では老朽化等改築事業の実施等に伴い単独事業が増加したことから、27年度においては単独事業は類似団体の平均値を上回っています。

補助費等については、類似団体の平均値を下回って推移していましたが、地方消費税増額の影響に伴う地方消費税交付金の増、支給対象学年の増加に伴う高等学校等就学支援金事業の増加などに伴い、27年度決算額では大きく増加し、結果、類似団体の平均値を上回り、都道府県平均値と近くなっています。今後は、山積する行政課題に的確に対応し、計画的な財政運営を行っていくため、平成28年度から平成32年度を対象期間として策定した「財政運営指針」に基づき、引き続き歳入確保・歳出抑制策に取り組みたいと考えています。

(6) 都道府県目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

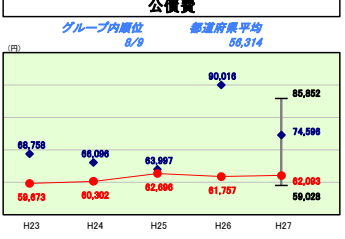
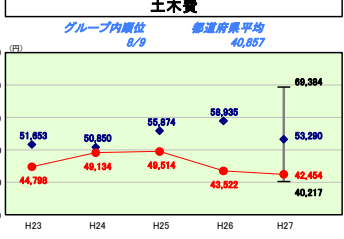
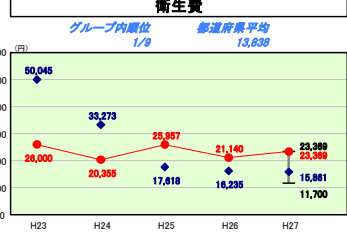
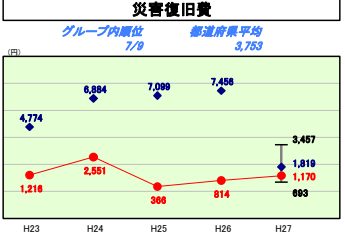
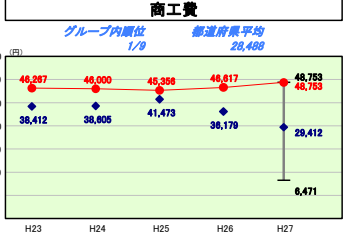
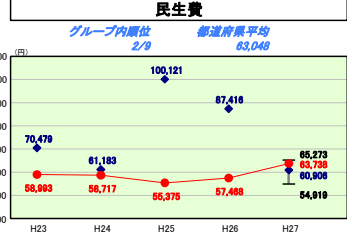
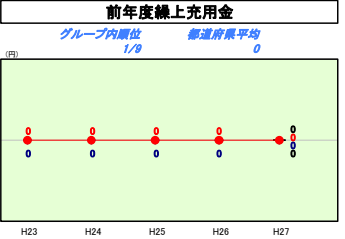
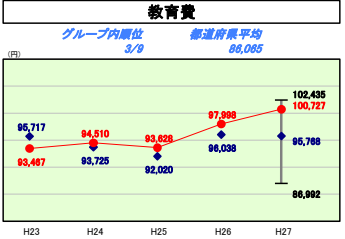
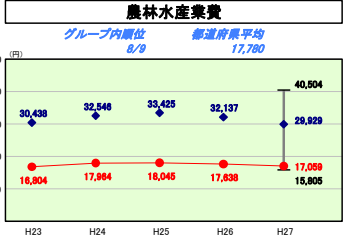
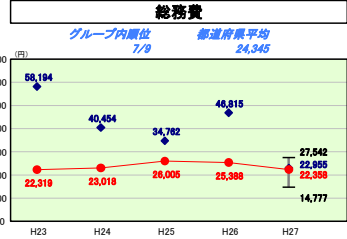
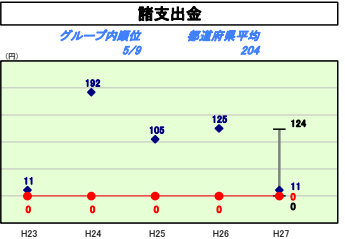
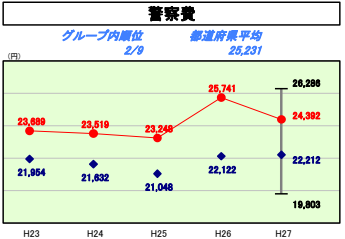
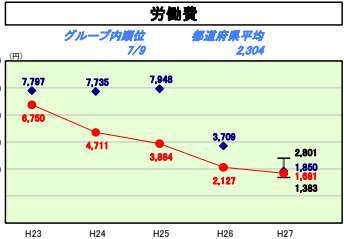
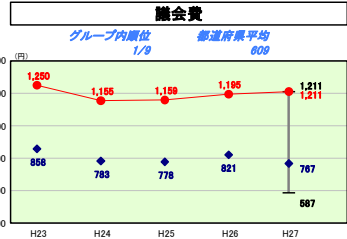
平成27年度

香川県

人口	1,002,173人 (H28.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	992,511人 (H28.1.1現在)	実質赤字率	- %
面積	1,876.72 km ²	実質公債費比率	12.0 %
歳入総額	445,904,227千円	将来負担比率	190.2 %
歳出総額	439,293,841千円	グループ	H23 C H24 C H25 C
実質収支	7,622,516千円	(年度毎)	H26 C H27 C
専任財政規模	264,861,708千円		
地方債残高	864,769,044千円		

● 当該団体値
◆ グループ内平均値
■ グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 { Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 }
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



目的別歳出の分析

本県では、平成23年度から平成27年度までを対象期間とした財政運営計画に沿って、歳入確保・歳出抑制の取組をすめつつ、人口減少への対応と地域活力の向上への対策を最重点として施策の選択と集中の徹底などを進めました。人口1人当たりの決算額の推移について、主だった特徴を数点あげると次のとおりとなります。

警察費は、26年度に対前年度2,493円増加していますが、これは丸亀警察署整備事業に伴う決算額増加が影響しており、27年度では整備事業の終了に伴い決算額が減少しています。

教育費は、平成26年度に4,370円、平成27年度に2,729円それぞれ対前年度より増加していますが、これは老朽校舎等改築事業及び高等学校等放學支援事業の実施が主な増加要因です。

土木費は、平成24年度、25年度に、それぞれ前年度より人口1人あたりの決算額が増加していますが、これはダム事業による決算額の増加が主な要因です。一方、27年度決算においては交付金事業の減少に伴い決算額は減少しており、また、平成23年度から平成27年度各年度において類似団体の平均値を下回っております。本県は、普通建設事業費についても類似団体の平均値を下回っており、同様の傾向が見られます。

民生費は、社会保障経費の増加による決算額増加傾向が見られ、27年度決算においては地域医療介護総合確保基金造成事業(介護分)の増加のほか、保育所運営費、斯道学園立替整備事業の増加などの影響による決算額が増加しています。

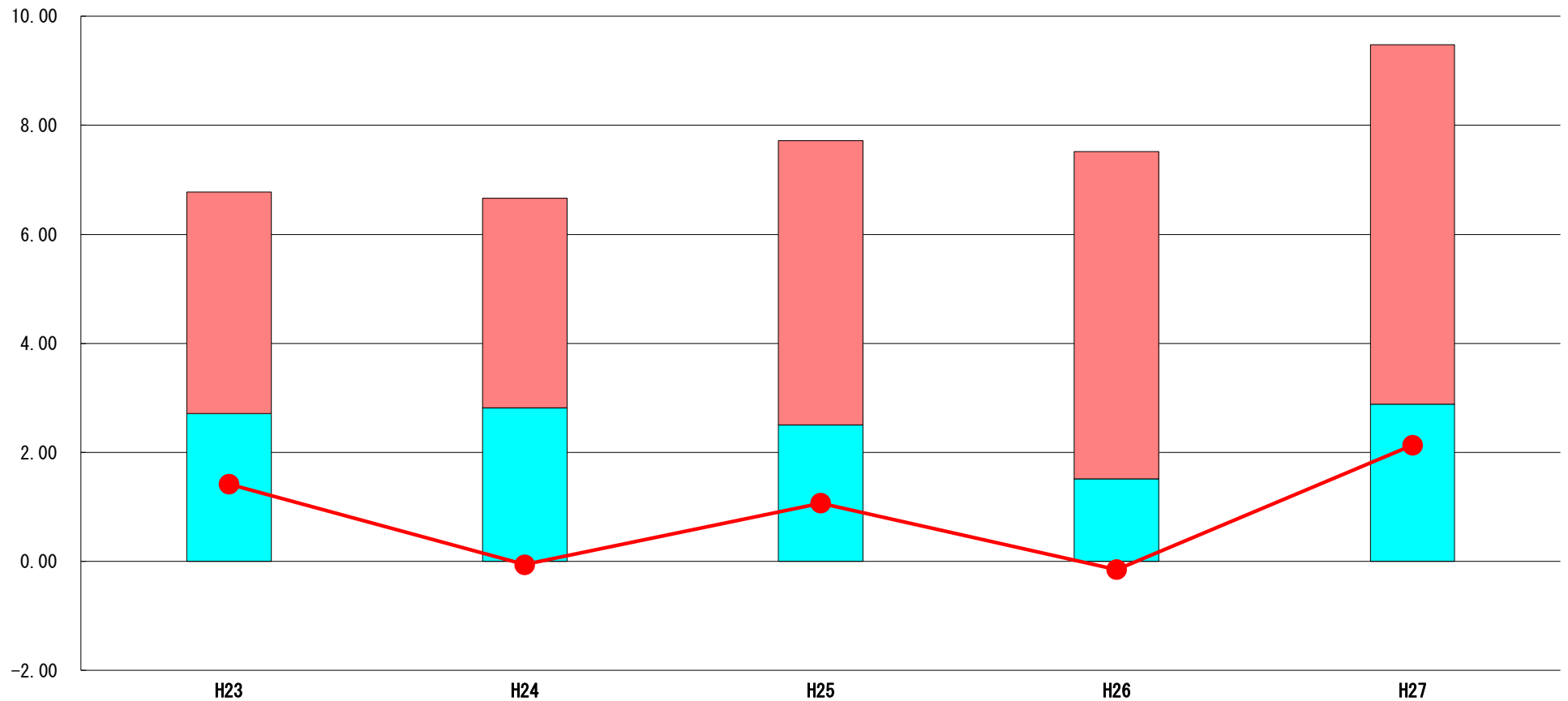
今後は、山積する行政課題に的確に対応し、計画的な財政運営を行っていくため、平成28年度から平成32年度を対象期間として策定した「財政運営指針」に基づき、引き続き歳入確保・歳出抑制策に取り組んでいきます。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）




平成27年度

香川県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H23	H24	H25	H26	H27
 財政調整基金残高		4.07	3.84	5.22	6.01	6.60
 実質収支額		2.71	2.82	2.50	1.51	2.88
 実質単年度収支		1.42	▲ 0.06	1.07	▲ 0.15	2.13

分析欄

財政調整基金残高は、平成24年度を除くと財政調整基金への積立額が取崩額を上回っていることから、増加傾向にあります。しかし、本県では、財政調整基金のほか県債管理用基金などの基金を財政調整用5基金として管理しており、当該5基金の残高は平成4年度末のピーク時836億円と比較すると、平成27年度末現在では395億円と半分以下にまで下回っています。

実質単年度収支は平成24年度及び平成26年度でマイナスとなったそれぞれの要因は（H23:3,602,543千円、H24:▲152,397千円、H25:2,742,891千円、H26:▲395,569千円、H27:5,646,585千円）、平成24年度は単年度収支額はプラスでしたが財政調整基金の積立額が取崩額を下回ったため、平成26年度は実質収支額が前年度の実質収支額の約6割に減少し単年度収支額がマイナスになったためです。平成25年度は財政調整基金への積立額が取崩額を上回ったこと、平成27年度は実質収支額が前年度の約2倍になったことから、それぞれ実質単年度収支額はプラスとなっています。

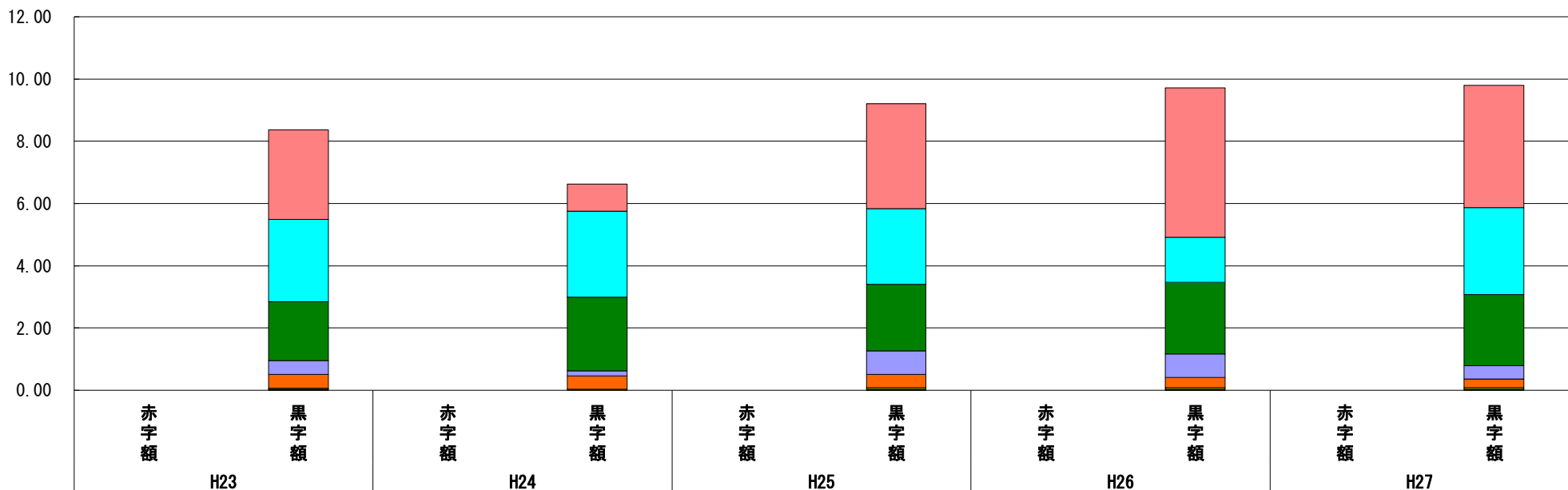
今後も「財政運営指針」に基づき、県税収入の確保や県有未利用地等の売却による歳入確保、事業の廃止・見直しの徹底などによる歳出抑制等によって持続可能な財政運営を目指します。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

平成27年度

香川県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H23	H24	H25	H26	H27
香川県水道用水供給事業会計		2.87	0.87	3.36	4.81	3.93
一般会計		2.64	2.76	2.44	1.44	2.80
香川県立病院事業会計		1.89	2.36	2.13	2.30	2.28
香川県工業用水道事業会計		0.45	0.16	0.76	0.76	0.42
番の州地区臨海工業用土地造成事業特別会計		0.44	0.43	0.43	0.33	0.29
証紙特別会計		0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
香川県五色台水道事業会計		0.01	0.00	0.04	0.04	0.03
集中管理特別会計		0.01	0.00	0.00	0.00	0.01
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.01	0.00	0.00	0.00	0.00

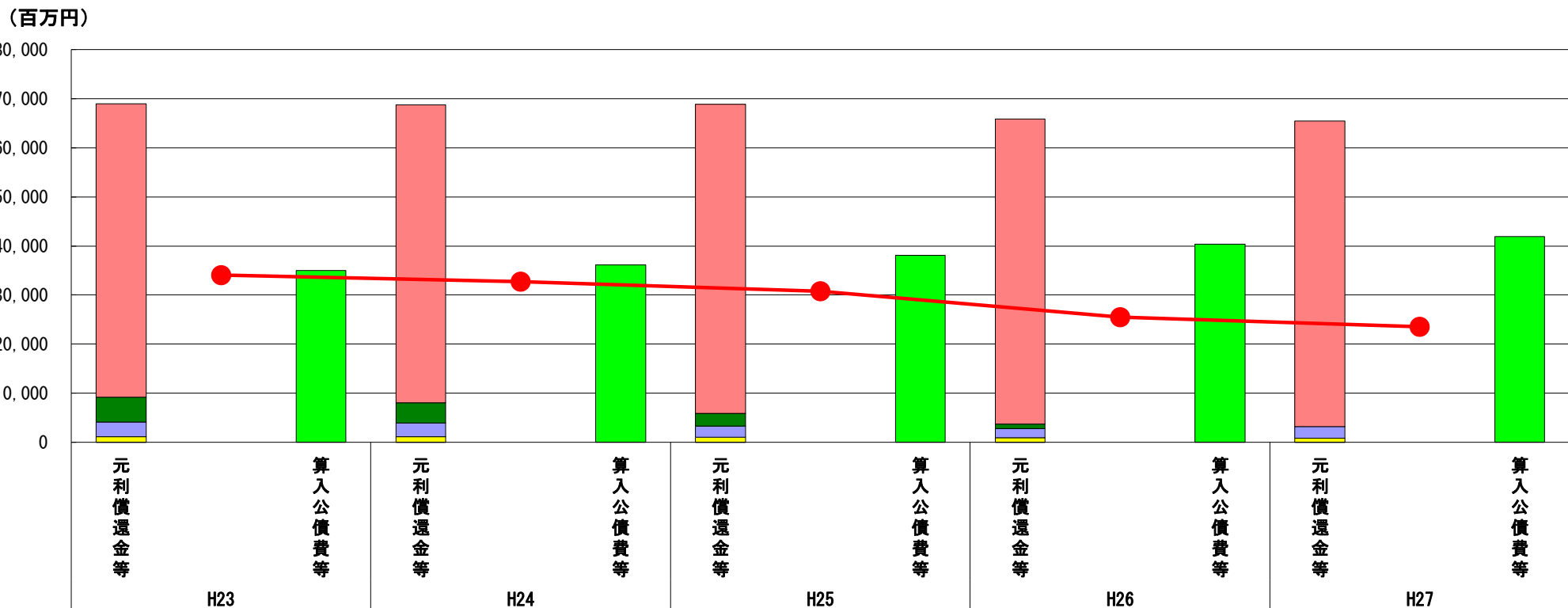
分析欄

いずれの会計においても実質赤字額は生じていません。
 平成26年度の一般会計は、基金へ積み立てる国庫補助金の減少等により、歳入が対前年度で▲61.6億円減少した一方、歳出が対前年度で▲37.9億円減少したことにより、前年度と比較して黒字額が減少しています。
 香川県水道水供給事業会計は、年度末における現金預金と長期預金間での資金運用により増減しております。
 今後も、一般会計及びその他の会計とも、収入確保及び歳出削減に努めます。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

平成27年度

香川県



(百万円)

分子の構造		年度	H23	H24	H25	H26	H27
元利償還金等(A)	元利償還金		59,852	60,743	62,962	62,066	62,262
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		5,040	4,115	2,567	969	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		3,000	2,826	2,281	1,835	2,305
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		1,101	1,110	1,015	955	845
	一時借入金の利子		14	11	8	7	6
算入公債費等(B)	算入公債費等		34,980	36,113	38,052	40,354	41,902
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		34,027	32,692	30,781	25,478	23,516

分析欄

元利償還金等(A)は、臨時財政対策債の元金償還は増加しているものの、借換え等による借入利率の低下による利子の減などに伴い、全体としては減少しています。なお、平成22年度に策定した財政運営計画に基づき、平成23年度以降は満期一括償還の発行をしていないため、年度割相当額については、毎年度減少しています。

算入公債費等(B)は、臨時財政対策債等に係る基準財政需要額の増加に伴い増加しています。

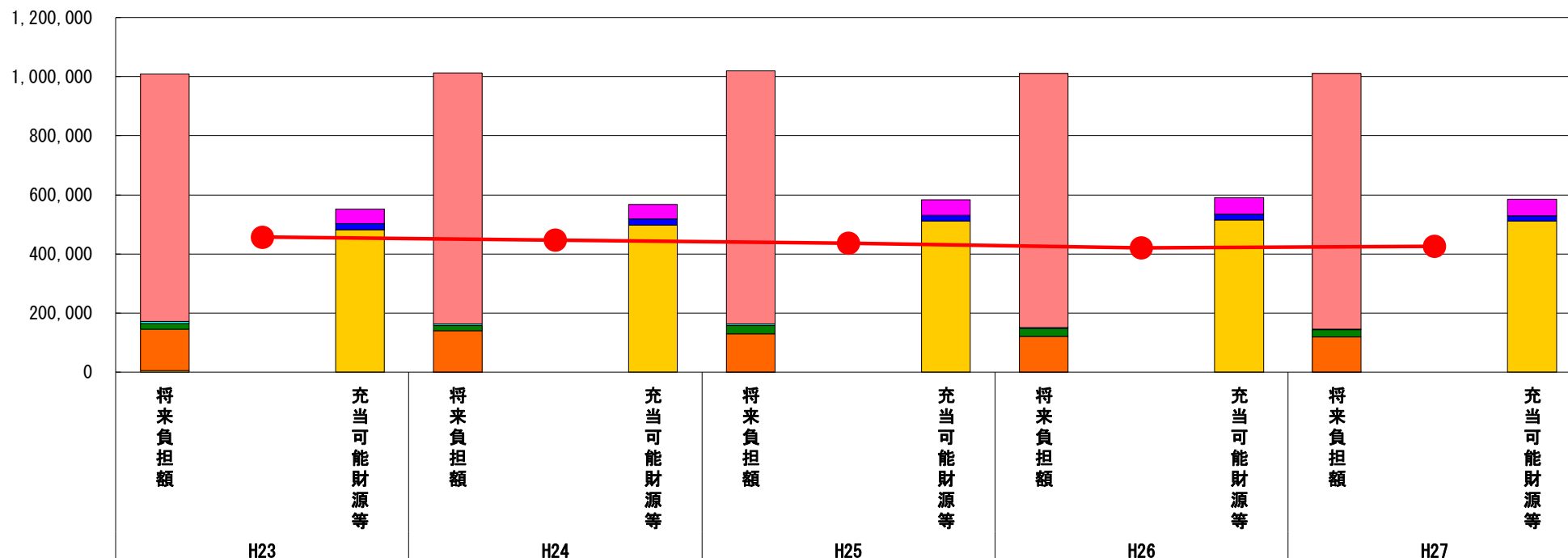
元利償還金等(A)が減少し、算入公債費等(B)が増加傾向にあることから実質公債費比率の分子((A)-(B))は、減少傾向となっています。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

平成27年度

香川県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H23	H24	H25	H26	H27
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		837,998	850,472	857,782	860,469	865,078
	債務負担行為に基づく支出予定額		6,226	5,178	4,196	3,258	2,434
	公営企業債等繰入見込額		19,132	18,477	29,001	26,274	23,828
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		139,911	139,311	129,392	120,899	119,088
	設立法人等の負債額等負担見込額		5,773	83	27	8	43
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		49,151	48,729	53,244	55,980	55,333
	充当可能特定歳入		20,875	20,125	19,626	18,791	18,366
	基準財政需要額算入見込額		482,344	498,169	510,882	515,517	511,193
(A) - (B)	将来負担比率の分子		456,671	446,497	436,647	420,620	425,578

分析欄

将来負担額(A)については、臨時財政対策債に係る一般会計地方債残高が増加していますが、対象者の減少による退職手当負担見込額の減少等に伴い減少しています。また、香川県土地開発公社が解散したことにより、平成24年度の設立法人等負債額等負担見込み額が前年度に比べ大きく減少しています。

充当可能財源等(B)については、臨時財政対策債等に係る基準財政需要額算入見込額や充当可能基金が増加傾向にあります。

将来負担額(A)は横ばい傾向であり、充当可能財源等(B)が増加傾向であることから、将来負担比率の分子((A)-(B))は、若干の減少傾向となっています。

(11) 都道府県公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

平成27年度

香川県

人口	1,002,173	人 (H28.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	992,511	人 (H28.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	1,876.72	km ²	実質公債費比率	12.0	%
歳入総額	445,904,227	千円	将来負担比率	190.2	%
歳出総額	433,293,841	千円	グループ	H23 C H24 C H25 C	
実質収支	7,622,516	千円	(年度毎)	H26 C H27 C	
標準財政規模	264,861,708	千円			
地方債現在高	864,769,044	千円			

● 当該団体値
◆ グループ内平均値

※ 有形固定資産減価償却率は平成28年10月1日時点で固定資産台帳を整備済みの団体について、債務償還可能年数は平成28年10月1日時点で統一な基準による財務書類を作成済みの団体について、数値を記載している。
 ※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。

有形固定資産減価償却率 都道府県平均 44.9 有形固定資産減価償却率 [-]	債務償還可能年数 都道府県平均 0.0 債務償還可能年数 [-]
固定資産台帳整備中・未整備	財務書類作成中・未作成

将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

将来負担比率と有形固定資産減価償却率の推移

固定資産台帳整備中・未整備

分析欄

(参考)

		H23	H24	H25	H26	H27
当該団体値	将来負担比率	/				
	有形固定資産減価償却率	/				
グループ内平均値	将来負担比率	/				
	有形固定資産減価償却率	/				

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析

将来負担比率と実質公債費比率の推移

分析欄

別紙のとおり

(参考)

		H23	H24	H25	H26	H27
当該団体値	将来負担比率	206.9	201.3	198.5	191.7	190.2
	実質公債費比率	15.5	15.2	14.7	13.4	12.0
グループ内平均値	将来負担比率	215.0	206.0	199.1	208.1	239.1
	実質公債費比率	15.8	15.7	14.9	14.2	15.9

(11)都道府県公会計指標分析/財政指標組合せ分析表

将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析

分析欄

財政運営計画に基づき、臨時財政対策債を除く地方債残高を減少させる財政運営の結果、一般会計のうち臨時財政対策債を除く地方債残高は平成23年度末に5,436億円であったものの、平成27年度末には4,889億円となっています。将来負担額における一般会計等の地方債残高は平成26年度に比べ増加していますが、将来負担額全体では、対象者の減による退職手当負担見込額の減などにより、約4億円の減少となっています。充当可能財源等は、平成26年度に比べ減少していますが、標準税収入額の増により標準財政規模が増加したため、将来負担比率は低下しています。

実質公債費比率については、平成27年度は元利償還金及び準元利償還金の合計額は、借換え等に伴う借入利率の低下による利子償還金の減により、前年度より約4億円程度減少しています。基準財政需要額算入額は臨時財政対策債の増などにより、標準財政規模は標準税収入額の増により、それぞれ増加したため、実質公債費比率は低下しています。

財政運営指針(平成28年度から32年度)に基づき、県税収入の確保等による歳入確保、事務事業の廃止・見直しの徹底による歳出抑制に取り組むとともに、一般会計及び全会計の臨時財政対策債を除く県債残高を減少させます。さらに、元金プライマリーバランスの黒字化を図り、一般会計及び全会計の県債残高の減少を目指します。

(12)-1都道府県施設類型別ストック情報分析表①

平成27年度

香川県

人口	1,002,173	人(022.1.1(注))	実質赤字比率	-	%
うち日本人	992,511	人(022.1.1(注))	通算実質赤字比率	-	%
面積	1,876.72	km ²	実質公債費比率	12.0	%
歳入総額	445,904,227	千円	将来債比率	190.2	%
歳出総額	433,293,841	千円	グループ	H23 C H24 C H25 C	
実収支	7,622,516	千円	(年度毎)	H26 C H27 C	
標準財政規模	264,861,706	千円			
地方債残存高	864,766,044	千円			

※ 平成26年10月1日時点で固定資産台帳を整備済みの団体について、数値を記載している。
 ※ グループとは、道府県を財政力指数の高順によって9つに分類したものである。
 [Aグループ 1,000以上、Bグループ 0.500以上1,000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成26年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。

固定資産台帳整備中・未整備

施設情報の分析欄

(12)-2都道府県施設類型別ストック情報分析表②

平成27年度

香川県

人口	1,002,173	人(022.1.1(注))	実質赤字比率	-	%
うち日本人	992,511	人(022.1.1(注))	通算実質赤字比率	-	%
面積	1,876.72	km ²	実質公債費比率	12.0	%
歳入総額	445,904,227	千円	将来債比率	190.2	%
歳出総額	433,293,841	千円	グループ	H23 C H24 C H25 C	
実収支	7,622,516	千円	(年度毎)	H26 C H27 C	
標準財政規模	264,861,706	千円			
地方債残高	864,766,044	千円			

※ 平成26年10月1日時点で固定資産台帳を整備済みの団体について、数値を記載している。

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によってつに分類したものである。

[Aグループ 1,000以上、Bグループ 0.500以上1,000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]

※ 住民基本台帳人口については、住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成26年度以降、調査年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載。

※ グループ内順位及び都道府県平均は、平成27年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。

固定資産台帳整備中・未整備

施設情報の分析欄